



DEEP OFFICIAL RULES

フューチャーキングトーナメント

DEEP 事務局

I. 試合

- 試合は DEEP 公式リングを使用する。
- 本大会の体重制限は男子の場合、バンタム級（62 k g 以下）、フェザー級（65.8kg 以下）、ライト級（70.3kg 以下）、ウェルター級（77.1kg 以下）、ミドル級（83.9kg 以下）の5階級制とし、試合当日の主催者指定の時間にレフェリー立会いのもと計量を行う。もしここで時間内にパスしなければ再度指定された時刻に再計量を行うが、それでもパスしなかった場合は下記の通り罰則を課せられる。
 - ※計量時の体重契約違反に対する罰則は以下の通りである。
 - ・ 0.5 kg未満の超過→「注意」（イエローカード1枚）を課せられて試合出場となる。
 - ・ 1 kg未満の超過→「警告」（イエローカード2枚）を課せられて試合出場となる。
 - ・ 1 kg以上の超過→「失格」（レッドカード）となる。
- 試合は最大16名のトーナメントで行なわれ、1ラウンド5分の1ラウンド制とするが、決勝のみ2ラウンド制とする。
 - ※ラウンド間のインターバルは1分間とする。
- 選手は必ずマウスピース、ファールカップを着用する。
- 選手は主催者の用意するオープンフィンガーグローブを着用しなければならない。
- 試合に際して、道着、ニーパッド、エルボーパッド、シューズ、アングルサポーターは選手の任意で着用することができる。但し、ルールミーティングの際に着用する装備品を持参し、レフェリーのチェックを受けるものとする。
- バンテージ、テーピングの使用は選手の任意とするが、レフェリーのチェック及びサインを必要とする。
- 選手は、顔、髪を含め身体のいかなる部分にも、オイル、ワセリン、グリース、痛み止めやマッサージ用のクリーム等を塗布してはならない。

II. 勝敗

- DEEP 公式ルールにおいては、以下の状況下で勝敗を決定する。
 - ・ ギブアップ
 - マットか相手の体を3回以上叩くか、口頭でギブアップの意思表示をした場合
 - ・ レフェリーストップ
 - レフェリーがこれ以上の試合続行は危険であると判断した場合

・ドクターストップ

リングドクターが負傷した選手の試合続行を不可能と判断した場合

- a. 負傷の原因が相手の正当な攻撃、または負傷した選手自身にある場合、負傷した選手を敗者とする。
- b. 負傷の原因が相手の反則による場合、負傷した選手を反則勝ちにする。

※負傷した選手のドクターチェックは、ニュートラルコーナーでレフェリー一立ち会いのもとで行われ、セコンドがこれに介入することはできない。診断の対象ではない選手は、反対側のニュートラルコーナーで待機する。

・試合放棄

セコンドがタオルをリング内に投入した場合

・失格

1度目の反則に「注意」、2度目の反則に「警告」、それぞれにイエローカードが提示され、3度目の反則にはレッドカードの提示とともに「失格」とする。また、「注意」「警告」の段階でレッドカードが提示された場合は、失格とならないものの、重度の反則として判定の際、大幅な減点となる。レフェリーは反則の回数に関わらず、悪質な反則行為には即失格とする権限を持つ。

・判定

全ラウンド終了時点で勝敗が決しない場合は、ジャッジ3名による判定に委ねられる。この試合はマストシステムにより、勝敗を必ず決定する。

(ドローは無い)

そして偶発的な事故等により試合続行が不可能となった場合は事故が起こるまでの判定により勝敗を決定する。

Ⅲ. 判定基準

● 試合が判定となった場合、以下の優先順位で3ラウンドを総合的に判定する。

1. 相手に与えたダメージ
2. ギブアップ勝ちにつながるアドバンテージ
3. 攻防の主導権
4. 積極性
5. 印象

※反則による減点は、その度合により各ジャッジがそれぞれ考慮し、判定に反映させる。

IV. レフェリーの指揮

- レフェリーの指示、裁定は絶対的なものであり、選手とセコンドは服従しなければならない。
- ロープ際の攻防で選手が落ちそうになったとき、またはロープが著しく攻防の妨げになっている場合、レフェリーはブレイクを命じ、リング中央で両者スタンド状態から試合を再開する。
- いかなるポジションの攻防であっても、レフェリーが膠着状態であると判断した場合、ブレイクを命じ両者スタンド状態から試合を再開する。
- 試合進行上、ルールに明記されていない不足の事態に際しても、レフェリーの決定に従わなければならない。

V. 反則

- 以下の行為は全て反則とし、減点、失格の対象となる。
 1. 噛みつき
 2. 目つぶし、及び目をえぐる行為
 3. 頭突き
 4. 肘打ち
 5. 金的攻撃
 6. 肛門、口腔、鼻孔、眼球等の粘膜部に指を引っかけて相手をコントロールする
 7. 手足の指に対する関節技
 8. 両者、またはどちらか一方の選手がグラウンド状態となった場合、膝による首から上への一切の打撃攻撃は禁止となる

※グラウンドの定義
足の裏以外の体の部位が、1点以上マットに着いた状態
(膝、片手、片膝、おしり、背中など各1点でグラウンド)

 9. スタンド状態の選手は、グラウンド状態の選手に対し、首より上へ一切の足での打撃攻撃を禁止とする
 10. 消極的姿勢及び有効的でない攻撃を続ける
 11. 頭髪を掴む
 12. 相手をリング外へ投げる、または押し出すこと
 13. ロープを掴む、またはロープに手足を引っかける
 14. リング外へ逃げる
 15. 喉、または後頭部、延髄、脊髄への打撃攻撃

16. 喉を掴む攻撃

17. 自身または相手のグローブ、装備品、シューズを掴んで攻防をすること

VI. その他

- 選手は試合当日、グローブを着用する前に必ず検査員によるグローブチェックと、グローブを封印したテープにサインを受けなければならない。また、一度封印された後は、試合終了までグローブを外すことはできない。
- セCONDは1名とし、試合中は自軍のコーナーから離れてはならない。また、試合中セCONDが選手に直接接触した場合、そのセCONDの退場を命ずるか、そのセCOND側のレフェリーの選手に反則としての罰則を与える。
- 選手、セCONDがレフェリーの裁定に異義を申し立てる場合、試合終了後2週間以内に文書で提出すること。リング上を含め直接抗議することは禁止する。

VII. その他 健康面

- ドクターチェックは大会当日、試合前に必ず受けるものとする。
- 本試合より45日以内に、あらゆる試合においてKO、もしくはTKOをされている場合は、本試合に出場できないこととなる。
- 本試合の前のあらゆる試合においてKO、TKOされている場合は、適切な医療従事者による頭部のCTスキャンを行い、証明書を提出しなければならない。
- 適切な医療従事者により、B型・C型肝炎の検査を受け、証明書を提出しなければならない。(証明書は、1年以内のものであれば可。)

以上